



若竹だより

273



【巻頭言】

因縁時節

一学園増改築工事がスタートラインに一

園長 野田大燈

学園生・職員の長年の夢だった若竹学園増改築が始まろうとしています。

平成 6 年 3 月、情緒障害児短期治療施設として全国 15 番目の開設でした。（現在約 50ヶ所）

諸般の事情から当初予定の定員 50 名規模の建物が定員 30 名となり、それに伴って建物自体も当初計画の 2 分の 1 となりました。

50 人定員規模の建物が 2 分の 1 となり、30 人の園生が生活していますので食堂や居室等も手狭で園生に不便をかけている場面に遭遇する度に申し訳なく思っていました。

10 年ほど以前から増改築のために補助金申請をしておりましたが、行政側から「県下に築 40 年以上の福祉施設があるので順番に…」とやんわりと断り続けられていました。

そして本年は姉妹児童施設の「亀山学園」が竣工 55 年ぶりに改築となり、やっと行政側より増改築の許可が下りました。

他の施設からすれば築後の年月が経過してないだけに異例の認可でしょう。

しかし、現在は社会や家庭が複雑化して発達障害児等が増加しており、その対応のための家族療法棟や心理検査関連部門の部屋が必要となって来ました。

加えて、20 幾年前は 1 人当たりの最低居室面

積が 3.3 m²であったものが法改正で約 5 m²となり、30 人の児童居室のみでも増築が必要の状況でした。

増改築のハード面は建築業者さんに依頼すれば完成しますが、それに伴って職員の意識変革も必要です。

完成予定が平成 30 年 2 月ですので、その間に職員研修を通して新たな建物に相応しい体制を整えたいと考えています。

建物の事を「伽藍」と言います。然しいくら建物が立派でも内容がないものを『伽藍洞』と言います。建物に相応しい内容の児童心理治療施設でなければなりません。

新たな建物をフル活用して児童の治療に当たり、1 人でも多くの退園生を送り出したいものです。

そのために、建築業者による増改築と並行して、職員と児童が協力して環境整備に取り組みたいと考えています。

増改築の完成を待っての出発ではなく、増改築工事と並行して児童心理治療施設としてソフト面の得意とするところ、特徴とするところは何なのか、が問われています。

新たな外国からの手法を取り入れるのみではなく、瀬戸内海国立公園と言う、他には類をみない自然環境を最大限に活用した心理療法があつてよいはずで。

その療法は心を空しくして大自然に問うことだと思います。

一了一

青峰・若竹学級だより

ちいさな秋，みい〜つけた

1. 実りの秋

五色台は秋本番を迎えています。道ばたにどんぐりや栗のいがが転がっています。また，見上げた空の高さや色づいた葉に秋の深まりを感じます。

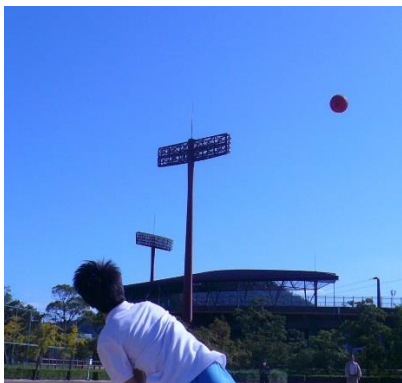


2. スポーツの秋

普段，子どもらは狭い園庭で警ドロ遊びに夢中になっています。若竹学園横の斜面にはいくつもの小径ができていて，そこに子どもらの元気を見つけてことができます。



先日，新体カテスト種目のうち，50m 走とボール投げについて 2 回目の測定を行いました。子どもらは 1 回目の記録と比べて，一喜一憂しながら，よりよい記録をめざして頑張っていました。そんな姿を見て，とても嬉しく思いました。



一喜一憂しながら，よりよい記録をめざして頑張っていました。そんな姿を見て，とても嬉しく思いました。

3. 芸術の秋

中学校美術の授業では，プレゼンソフトを活用して浮世絵や西洋画の鑑賞を行っています。当初，授業者が予想した以上に生徒らは感想を述べあっていました。感じる心，そして，それを伝えあえる力が育ってきている姿がうかがえました。

4. 挑戦の秋

「せんせ〜！」

どこからか私を呼ぶ声が聞こえます。

「ここ，ここ！」

何と，声の主は数メートルもある樹上にいます。どうやらツリーハウスを造ろうと案を練っているようです。



また，ある朝，火おこしをしている児童を見かけました。何度も何度も木と木を擦りあわせています。若竹学園倉庫からサバイバルキットを取り出し，実際に火をおこす経験をさせました。

児童生徒の興味・関心に即応・支援し，「生きる力」を育てています。

5. 学びの秋

2 学期に入り，中学校 3 年生は習熟度に応じた補充学習を実施しています。昨年度，見事に進路を切り開いた先輩の背を追ってひたむきに学習に取り組む姿が見られます。私立高校受験まで二ヶ月あまり。原籍校との連携を密にし，生徒一人一人の夢の実現を支援していきたいと思います。



お茶会

10月2日、香川文化会館で行われた子供茶会に参加しました。9月のお茶会でお手



伝いをしてくれた女子4人が参加し、高校生たちと一緒にお茶を頂きました。本格的なお茶会に初めて参加し、良い経験となりました。

おもてなし大使

10月9日、四国八十八ヶ所おもてなし大使任命書を頂きました。普段から積極的にお接待をしている小学4年生の女の子が代表して、任命書を受け取りました。たくさんの方が来ており、子どもたちも一生懸命お接待をしていました。



小学4年生 女子の感想

賞状を貰ってすごく嬉しかったです。これからはお接待でお遍路さんの力になりたいと思っています。

中学3年生 女子の感想

賞をとって嬉しかったです。

女性遍路小屋

10月10日、女の子たちが香川大学の学生と高松工芸高校の生徒の方々と女性専用の遍路小屋改装のお手伝いをしに行きました。最初は初対面の人が多く戸惑っていましたが、作業をしていく中で段々と、慣れたようで準備や片付けを率先して頑張っていました。

中学3年生 女子の感想

お接待をしている中で女性がたくさんいることにびっくりしました。女性にとって、女性遍路小屋はとても大事だと思いました。とても疲れたけど、とても楽しかったです。

中学3年生 女子の感想

女性遍路小屋は、四国初ということすごいです。お接待をして遍路小屋のありがたみが良く分かり、お遍路さんの温かさにも触れることができました。

中学3年生 女子の感想

「誰かのために何かをすること」は、とても尊いことなのだと感じました。この遍路小屋を使われる女性の方が喜んでくれることを願います。

中学3年生 女子の感想

女性用の遍路小屋ができてよかったと思います。

ウォークラリー練習

10月10日、ウォークラリーの練習で、男の子たちがあかね温泉までの11kmを歩きました。早いグループは2時間程でゴールしました。励まし合いながら、リタイアすることなく全員完走することができました。ゴールの温泉では「気持ちいい」と何人も言っており、気持ちよく汗を流しました。引き続き、来月の本番に向けて一生懸命頑張っていきます。



今治 FC

10 月 10 日、今治 FC の岡田監督をはじめ、コーチの方々と随流荘で交流会を



しました。中学 3 年生の男の子が代表で、花束を差し上げました。次の日、学園に来てくださり、写真撮影をしたり、照れながらも握手をしてもらってる子もいました。

10 月行事

- 2 日 お茶会
- 9 日 おもてなし大使任命式典
- 10 日 女性遍路小屋改修お手伝い(女子)
- 10 日 今治 FC の方との交流会
- 12 日 防災訓練
- 20 日 買物学習

園生の作品



園生の中には、紙やダンボールでいろいろな作品を作る子もいます。最近では、紙飛行機(グライダー)や折り紙、

剣や船を作っています。今回紹介する作品は、中学 1 年生の男の子が『ながれ PS03』という船です。海猿で出てきた海上保安庁の船を画用紙で作りました。設計図等を使わず、デッキなど細かい部分も丁寧に作っており、職員たちもその出来栄に驚きました。

在籍人数 平成 28 年 10 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	3	2	5
	中学生	6	5	11
	その他	0	0	0
	計	9	8	16
女 子	小学生	1	0	1
	中学生	5	2	6
	その他	0	0	0
	計	6	2	8
合計		15	9	24

編集後記

山の上は段々と寒くなって来ています。子ども達と風邪に負けず、元気に遊び回りたいと思います。 セラピスト補助 前田 愛弥

第 273 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈

~御寄附ありがとうございました~

須永 澄人 様

文具等